
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 338 号

ー環境・農業・食べ物など情報の交流誌ー

2012.08.04（土）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1137 部*****

□ 目 次 □-----

<巻頭言> 農林漁業は日本再生戦略の旗頭？ 小泉浩郎

<山崎農業研究所：総会記念記念フォーラム（2012.07.21）速報>

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.127』発行されました

<編集後記> デモは有効か無効かではなく

<巻頭言> 農林漁業は日本再生戦略の旗頭？

政府は 7 月 31 日、2020 年までの成長目標等を示した「日本再生戦略～フロンティアを拓き、共創の国～」を閣議決定した。「被災地の復興なくして日本の再生なし」「福島再生なくして日本の再生なし」と被災地復興を第 1 に掲げ、「原発からグリーンへ」のエネルギー構造転換を強力に進める「グリーン成長戦略」を最重要戦略とした。また「グリーン（環境・エネルギー）」「ライフ（医療・健康）」と並び「農林漁業（6 次産業化）」を新たな成長を目指す 3 大重点分野と位置づけた。

フロンティア、グリーン、ライフ、共創、6 次産業化など国民には意味不明のカタカナ、造語が散りばめられた本文・行程表を含む 125 ページの報告書は、耳に優しい響きを持つが、この国のあり方、そのなかでの食料・農業・農村の役割が見えてこない。

3 年前、TPP 参加をめぐって当時の外務大臣（前原）は、日本の GDP に占める農業の比率は 1.5%とした上で「1.5%を守るために 98.5%を犠牲にするのか」と発言し物議をかました。それがこの混迷の時代に農林漁業は、日本再生の 3 大重点分野の 1 つだという。何か裏がないかと疑いたくなる。

貿易自由化対応では、貿易額全体に占める経済連携協定（EPA）の締結国の割合を 11%（11 年）から 80%（20 年目標）に高めるとしている。ほとんどの国と協定を結ぶというのだから、そこでは、多国間の EPA である環太平洋連携協定（TPP）への日本の参加は、当然としか読み取れない。その下準備が「日本再生戦略」と見るのは深読みだろうか。

貿易自由化の本格的実施の嚆矢となったガットウルグアイ・ラウンド農業合意（1994）の際、国内農業への影響を緩和のため、約 8.2 兆円（地方単独事業費約 1.2 兆円を含む）が予算化された。その経過を見れば、貿易自由化の代償を予算・事業で進めることの限界をこの 20 年間で十分学んだはずだが、また、予算・事業で包囲し重要な議論を封じ込められないか心配である。

小泉浩郎

山崎農業研究所事務局長

yamazaki@yamazaki-i.org

<山崎農業研究所：総会記念記念フォーラム（2012.07.21）速報>

去る 7 月 21 日、山崎記念農業賞表彰式ならびに総会記念フォーラムが行なわれた。今回、山崎記念農業賞を受賞したのは福島県有機農業ネットワーク。表彰理由は「農のネットワーク力にもとづいた福島再生」である。表彰式の後、総会記念記念フォーラム（「福島県有機農業ネットワークの皆さんを囲んで」）が行なわれた。

□総会記念記念フォーラム

1. 長谷川浩氏（福島県有機農業ネットワーク理事、日本有機農業学会副会長）
——3.11 を文明の転換点に

政府は危険な原発を福島や新潟のような過疎地に置いて危険を避けている。原発のあるところでは常に危険にさらされている。そのうえ、一旦事故が起こると現地での被害者は加害者のような扱いを受ける。明治時代に足尾銅山公害事件では、被害を受けた農民が会社・政府の対応が不満で蜂起したが、官憲によって取り押さえられた。被害者の福島原発事故についても同じようなことが言える。

今回、福島では放射能汚染という最悪の公害事件がおきた。何の罪もない人が16万人も避難し、家族、コミュニティの絆が分断された。強制避難地域の再建のメドは全く立っていない。今年、行政によって稲作を制限された伊達市や福島市、二本松市の地域では、人は住んでいるのに耕作を断念した農家が続出した。

このような原発事故のリスクを担いながら、東北は人、食料、電力を東京に供給してきた。農業や農村の疲弊は東京の繁栄の虚像である。農村は寂れる一方である。近い将来には石油が枯渇し今までのようなエネルギー浪費の生活は出来なくなる。政府は、これに対する何の効果的対策も出していない。農村人口は激減し、このままでは食料生産もできなくなる。

今農村を復興しておかなければ、日本の震災からの復興もあり得ない。家族を分断し、人の生命を危険に晒す、おそろしい原発に依存しない新しい文化の創造が望まれる。エネルギー自給、新しい生産様式、その一つに有機農業があり、農村の生産者と都市の消費者が結びついた新しい農業を発展させることができる。(文責 安富・田口)

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.127』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.127』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布(有料:1,000円)いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

目次(抜粋)

《土と太陽と》(巻頭言)

農地の放射能汚染問題の解明◎塩沢 昌

[第37回研究所総会・総会記念シンポジウム]

■総会記念シンポジウム「東日本大震災と農業・農村」

(1)東日本大震災による農業インフラの被災状況◎渡邊 博

(2)福島—希望への道筋を探りながら◎戎谷徹也

(3)風評被害を乗り越える経営力を求めて

—東海 JCO からフクシマ◎照沼勝浩

[特別寄稿]

放射性物質汚染の過度な危険視が農業復興を阻む◎西尾道徳

土壌生成理論・腐植前駆物質による放射能汚染対策の

可能性について◎高味充日兎

〈連載〉畦道・赤トンボのナショナリズム [18・最終回]

情愛のふるさと／宇根 豊

<編集後記> デモは有効か無効かではなく

大飯原発の再稼働反対を求める週末金曜日の首相官邸前デモが続いている。わたしも何度か出かけてみたが、回を重ねるごとに人の数がふえているという印象を覚える（ただし昨日 08/03 の参加者数は前回は下回ったらしい）。そしてデモの平和的な様相と対照的に警備の過剰さは増す一方である。

知人とこのデモについて話したときのこと。こんな話を聞いた...と彼が言う。発言者はオウム真理教の元幹部。「わたしたちがあれほどの活動をしてても社会は何も変わらなかった。いまの首相官邸前のデモで何かが変わると思えない」。そんな内容だそうだ。

同じようなことをわたしもよく家族から言われる。「あななたが出かけていったからといって何が変わるというわけでもないでしょう」と。

たしかにそうなのかもしれない。だがしかし、とも思うのだ。いまのこの運動はネットワーク型とでもいうものであって、かつての垂直型の、上から下への運動と違うのではないか。かつての運動の多くが、上からの物言いで、自分が変わることは想定していないのに対して（という言い過ぎかもしれないが）、いまのうごきは、自分が変わることを、自分が気づくことを大事にしているのではないか。

「さい かどう は～ん た～い」

デモで聞こえる声を文字にするとこんな感じになる。ユルいと言われればそうなのだろう。だが、このユルさゆえにたくさんの人が参加しているといえないか。気恥ずかしさからか声を上げない人も少なくない。でもそれでもいいとわたしは思う。ここに来て、何かを感じていることにはかわりはないし、そこにいることが何よりの主張なのだから。

2012年08月03日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

P.S.

暑い日が続きます。読者の皆様、健康には十分お気を付けくださいませ。

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考—グローバル化の次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの方の書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん (文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)

グローバルの次は何? ~卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん (大地を守る会)

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん (長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん (拓殖大学政経学部)

ブログ：代替案 書評：『自給再考—グローバル化の次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん (イラストレーター・ライター)

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)

月刊とちぎ V ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん (半農半 X 研究所、執筆者)

ブログ：半農半 X という生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

1、件名 (見出し) を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字 (機種依存文字) のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 339 号の締め切りは 08 月 20 日、発行は 08 月 23 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 338 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2012.08.04（土）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』*****